



故郷を汚した東電と国が責任をもって元に戻せ！



浪江町津島地区 馬場 績さん

浪江町津島で農業をしていたが、原発事故で故郷は帰還困難区域となり、今も戻れない。政府は昨年6月、帰還困難区域の方針を「区域から人へ」と変更した。これはガラスバッジを持って線量を管理しろという「被曝の自己責任」であり。許せない。故郷を汚した東電と国が責任をもって元に戻せ。

政府は原発への調査・責任を果たしていない！

原発なくす静岡の会
事務局長 酒井 政和さん

中部電力は、浜岡原発の再稼働にむけ「基準地震動」の評価が過小となるよう操作していた。静岡県民の中部電力への信頼は地に落ちた。この不正は全ての原発に波及するものであり、政府は他の原発への調査も含めて責任を果たすべきである。



参加者の感想 七海葉里さん

事故のリスクがある原発を動かし続ける。地質データの改ざんという重大な不正が見つかったも、水平展開で調査すらしようとしな。原子力規制庁が「規制」の役割を全く果たしていない。福島県民は、汚染した地域はきれいに戻してほしい、過酷事故を起こした原発ではなく、安全な再エネを進めてほしいだけ。こんな当たり前の願いが、15年間たった今も蔑ろにされ続けているのだと実感し、怒りが止まりませんでした。この怒りを忘れずに声をあげ続けていきたいです。

農民連フラッシュ flash

5.1 福島市メーデー

5月1日福島市内の街中広場でメーデーが開催され、恒例の60秒アピールで寸劇を披露。アメリカの無法なイランへの攻撃によるエネルギー・物価高に苦しむ農家の声を「サナエは不要、ナフサは必要」と訴えました。



原発事故から 15 年が経過しても被害は継続している 今こそ、原発・火発をやめ、再エネ100%社会への転換を

んぼ柿は3倍の賠償支払いをしており、あんぼ柿と竹の子の賠償額が3倍の金額を越えないと支払わないというレアなケースです。しかもこの複雑な賠償ルールは東電が勝手に決めているもので、請求者の農家に何の落ち度もありません。そもそも東電の原発事故で出荷制限になった農産物に対しては即座に支払うべきです。15年経過した東電の理不尽な賠償拒否が今でも続き、生産者を苦しめています。



官邸前でコール「ナフサは必要、サナエは不要」

昨年6月、政府は帰還困難区域の方針を「区域から人へ」と変更しました。内閣府の担当者は「住民の方と協議しながら決めていく」と説明しますが、実態は全く違います。津島の馬場さんの自宅の空間線量は昨年2.5μSvあり、8時間外にいれば年間で7.3mmSVもの被曝です。日本の一般公衆の被曝限度は1mmSVですが、福島県民は原発事故以降20mmSV以下なら被害がないとされてきました。避難者の帰宅したいという思いを利用していることも悪質です。馬場さんは「だれが故郷を汚したんだ!」との叫ぶと多くの参加者から「国と東電だ!」と加勢の声が飛びます。避難者、福島県民を何重にも侮辱し苦しめる「被曝の自己責任化」は決して容認できず、今後も撤回するまで何度でも声を上げます。

規制の虜「規制庁」

中部電力・浜岡原発の「基準地震動」の評価が過小評価・操作されていた問題で、委託調査していた企業が東京電力を含め複数の電力会社の原発も調査していたことが分かっています。この問題が発覚した経緯は規制庁に告発があったことで判明しました。当然、他の電力会社にも問題がないか「水平展開」し、調査すると思われましたが、規制庁は早々に他の電力会社の調査をしないことを表明。その理由を何度規制庁に質問してもあいまいな回答に終始。不正を見抜くこともできず、規制機関が被規制側（電力会社）の勢力に実質的に支配されてしまう「規制の虜」が再来しています。

出荷制限の「竹の子」賠償不払い

福島県内では、今でも竹の子の出荷制限地域が多くあります。東電の農家に対する賠償支払いは、品目ごとに実施されています。しかし今回、竹の子の賠償を拒否しているのは、同じ生産者があんぼ柿も出荷しており、既にあ

被曝の自己責任化

2011年4月26日行われた政府東電交渉から、16回目の要請交渉に約100名が参加。今でも続く被害への救済と、エネルギー危機を乗り越えるためにも原発をやめ再エネ100%へ転換することを政府・東電に要求しました。

原発も火発も不要な再エネ100%は可能

アメリカの無法なイランへの攻撃により、世界のエネルギー情勢は危機的です。海外では実施されていないガソリンへの補助金は4月だけで約5千億円を費やす勢いです。国民に本当の危機を伝えず、政権の支持率維持のための補助金は段階的にやめるべきです。世界ではロシアのウクライナ侵攻時から積極的に省エネ、再エネへの投資が続け、加速度的に再エネを推進しています。今ある技術だけでも省エネ、太陽光、蓄電池、電気自動車、デマンドレスポンスなどを活用すれば、約30兆円の購入化石燃料を減らし、2030年代にゼロにすることは現実的に可能です。地震が頻発する今こそ原発は停止し、再エネに舵を切ることが、当然の選択です。

EU25カ国、米国でも30州で認可予定のペラダソーラー（プラグイン小型太陽光発電・800W程度）は多くの個人宅、貸家でも発電と利用が可能な装置です。経産省はできない理由を並べますが、各国では制度変更だけで実施し、大きく普及しています。これらを打開するには進んだ制度の導入と政治的意思、そしてその意思を阻む構造を変える必要があります。全国各地で小さな前進を積み重ね、少しでも現実を変えていきましょう。



ドイツで爆発的に普及しているペラダソーラー。100万軒で設置されている

オンラインから購入できます！



有機栽培 コシヒカリを使用したパックご飯です。玄米と白米をご用意しております！



福島県会津産小麦 100%のそうめん。これからの暑い季節にぴったりです。

会津産小麦 100%
そうめん

下記QRコードからご注文できます！



BASE



楽天

震災・原発事故から15年目の福島を見る一大阪新婦人

4月7日～9日の3日間、大阪新婦人の皆さんが「震災・原発事故から15年目の福島を見るツアー」に参加され、津波被害を受けた請戸小学校や、双葉町の原子力伝承館を見学しました。満開の桃の花への受粉作業やソーラーシェアリング見学など、福島の今を体験していただきました。

